

《第 27 号》「森を守るということ」

上治堂司(高知県馬路村村長)

日本は、国土の 67%が森林の「森の国」。

森は、水を育み、酸素を供給してくれる「かけがえのない存在」。都会に暮らしても山村に暮らしても、変わらない森の恩恵。先人たちがその手で一本一本丁寧に植えた人工林、その血と汗の結晶を、半世紀がたった今、私たちは引き継いでいます。

時代の変遷と共に、森林・林業を取り巻く環境も大きく変わり、輸入してきた外材やプラスチックなど別の素材が使われ、日本の森の木は需要減退・価格低下、採算が合わず手入れの行き届かない森林が増えていきます。

97%が森林の馬路村。温暖多雨な気候が「魚梁瀬杉」を育み、古くは大阪城・江戸城にも使われ、明治 40 年には全国に先駆けて森林鉄道が走った林業の村です。それゆえに、厳しさは一層のものがありますが、だからこそ、地域にある資源「森」の再生が私の使命なのです。平成 10 年に村長を就任し、第三セクター(株)エコアス馬路村を立ち上げ、どんぐり 1 個から住宅まで、「森の仕事まるごと販売」に取り組んでいます。消費者の視点を第一に、分かりやすい情報を消費者にお届けしようと、高知市に馬路村産木材で「森の情報館」を立て、柱や板など各部材には一本単価・一枚単価の値段を表示し、木の家を身近に感じていただく提案を試みています。

また、丸棒の土木素材としての商品開発、天然木の木目を活かした工芸品、木のお皿やカバンなど気持ちがワクワクする商品の開発と販売に一生懸命に取り組んでいます。

今の日本の森は、「使われないことによる危機」を迎えています。

是非、皆さんに、手にとってみて使っていただける木の商品をお届けしたい。それが、小さな村でもできる「森を守るということ」になると同じ、頑張ります。

以上